

平成28年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

平成29年4月14日現在

研究課題名	東欧の「境界（ボーダー）」における領域性・空間認識の比較研究 ーチェコスロヴァキアおよびハンガリーを事例にー				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	森下 嘉之		茨城大学・准教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	辻河 典子	近畿大学・講師	ハンガリー史	出張・報告
	2	香坂 直樹	跡見学園女子・兼	スロヴァキア史	出張・報告
	3	松岡 格	獨協大学・准教授	台湾人類学	コメンテータ
	4	佐藤 勘治	獨協大学・教授	米墨国境史	コメンテータ
	5	栗林 大	中央大学・研究員	政治学	コメンテータ
6					

研究成果の概要

今回の「プロジェクト型」共同研究において、代表者および該当する構成員は専門のフィールドであるチェコ、スロヴァキア、ハンガリーへの出張調査を計画した。代表者（森下）は、平成28年8月末から9月にかけて、チェコ及びドイツへの出張を行い、本研究に必要な史料を収集したほか、現地の地理学研究者と研究打ち合わせを行うことができた。また、研究構成員（香坂ならびに辻河）は各自、平成28年9月にスロヴァキアへ、平成29年2月にハンガリーへと研究調査に赴いた。

共同研究内容については、エスニック・マイノリティ研究会（松岡格代表）において平成28年度から数度の研究発表・打ち合わせを行い、本プロジェクトの共同発表にむけての準備を行ってきた。これらの成果を踏まえて、平成29年3月5日にスラブ・ユーラシア研究センターにて、センターの家田修教授をアドバイザーとして共同研究のワークショップを開催した。具体的には、「スロヴァキアの領域を科学的に把握する戦間期の試み」（香坂）、「トランシルヴァニアをめぐる学術政策と領土修正：第二次ウィーン裁定後のコロジュヴァールを題材に（1940-44年）」（辻河）、「戦後チェコ国境地域（Pohraničí）をめぐる方法的試論」（森下）の3本の報告を行い、本研究構成員の松岡、佐藤、栗林が、台湾少数民族研究、アメリカ・メキシコ国境研究、ナショナリズム理論研究に基づくコメントを踏まえて、総合討論を行った。

本研究ならびにワークショップを通して、スロヴァキア民族統計の導入を通して、独立国家の空間がどのように確定されていくのか、当局が措定する「民族」の分類が地域住民の意識をどのように規定していくのが明らかにされた。また、戦時期ハンガリーにおける地理学研究所の設立を通して、空間認識と国境修正運動においてアカデミズムが果たした役割の大きさが明らかにされた。最後に、戦後チェコ「国境地域」政策を通して、住民追放と共産主義化を契機に、国境空間が確定される経緯が示された。以上の3地域の事例を通して、国民国家形成、戦時体制を契機に「構築された空間＝国家領域」が、「支配や権力的手段」になることによって実体化するプロセスの一端を示すことができた。これらの事例は、東欧に限らず、世界の領域・国境の研究においても示唆するところが大きいと考える。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

本研究成果は、今年度刊行予定のエスニック・マイノリティ研究会会誌『エスニック・マイノリティ研究 Ethnicity, Nation, State, and the Globe: Ethnic Minority Studies (ENSG)』第1号において掲載予定である。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

「多民族国家」としてのチェコスロヴァキア 1918-1992」（科学研究費補助金 若手 B 代表者：森下嘉之（H27-30年度））

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。